

3

論理的でわかりやすく、生き生きと学び合える教師の発問

全教科に共通した「発問のポイント」

- 発問の意図を明確にしておく。
- 発問に対する応答を予想しておく。
- 発問の内容が1回で子供に伝わるよう、短く簡潔にする。
- 発達段階に応じた適切な言葉遣いで、手本となる話し方をする。
- 「話す速さ、言葉の調子と抑揚、間の取り方、豊かな表情」を意識する。

なぜ～なのでしょう？



導入

「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を明確にする。

- なぜ～なのでしょう。
- なぜそう思ったの。
- 本当にできるのかな。
- ～は、全てにあてはまるのかな。

「主体的な学び」の
原動力に！

展開

課題の追究・解決の見通しをもたせる。

- 今まで学習したことで、使えそうなことはないですか。
- 解決するために、どんな工夫ができそうですか。
- ～は、どんな働きをするのかな。

「見方・考え方」を
働かせるきっかけに！

課題の追究・解決に取り組ませる。(ペア・グループ)

- どうやって考えたのかな。
- もう少し詳しく聞かせてください。
- 似ている考えを集めてみよう。
- ～さんと～さんの意見はどこが違うのかな。

「主体的・対話的で
深い学び」を促す！

課題の追究・解決をより深める。

- ～と～を比べて考えるとどうですか。
- ～の視点から考えるとどうですか。
- 言い換えるとどういうことかな。
- ～と～とをまとめるとどうなりますか。

「思考の広がりや
深まり」につなげる！

終末

ねらいと対応して自分の言葉で振り返らせ、新たな学びへの意欲付けを図る。

- 出た意見の中でどれが一番納得できましたか。
- まとめると、どういうことですか。
- 今日の学習で分かったことは何ですか。
- 日常生活に使えると思ったことはありますか。
- もっと調べてみたいことはありますか。

「振り返り」が学び
を深め、「次の学びへ
向かう力」を育成！